

現在同名をもって一部で栽培されているものがあり、私も分与を受けて試作中だが花が咲かずとも確認できない。戦前親しく自生地を観察された方の話ではシャクジタヌキモはきわめてよく開花したと云うことであるが、現存のものは今の処開花例を聞かない。但しその分岐力はきわめて目立つものがあり、知人は熱帯魚用のガラス水槽を用い、ワラの浸出液を定期的に注いで窓際で栽培した処、最初1本であったものが無数に分岐し、その年の末には数百個の冬芽を形成したと云う。千葉大学の園芸学部でシャクジタヌキモの名で残っていたものが、東京山草会員により増殖されたものであると聞いている。シャクジタヌキモに就いて詳しく御存知の方はぜひとも御教示頂ければ幸いです。1982-5-3

岐阜県のフサタヌキモ自生地に就いて

佐藤安司

日本に特産し、閉鎖花をつけるタヌキモとして有名なフサタヌキモ (*Utr. dimorphantha*) は過去岐阜県下からの自生は報告されていないが、昭和44年に名古屋食虫植物懇話会のメンバーによる調査で岐阜県北部の安食(あじき)に自生地が確認されているので報告しておきたい。自生地は本巢町及び高富町のほぼ中間に位置し山際に沿った水田かんがい用の用水路の湧水中に多量に生育していた。用水路は1m程の幅があり深さは50cm程のものであるが、両側が草木におおわれて日当りはきわめて悪く、また湧水により水温はごく低く保たれていた。その為か水路中に繁茂するフサタヌキモに捕虫囊は殆んど見られず、隣接する水田へ流出、生育している個体にわずかの捕虫囊と閉鎖花を確認したに過ぎない。



フサタヌキモ (岐阜市安食, 1969年)

用水路と云っても水の流れは殆んどなく、貯水的な働きの方が大きかったように記憶するが、昭和48~9年の間に近くに工場が出来、その為か水路の改修と清掃が行なわれて完全に消失してしまったのは何とも残念である。その後県下からの自生は報告されていないし、全国的に見ても自生地はごく限られておりタヌキモの間では最も貴重なものかと思う。栽培にあたってはムジナモと混生させて良好な発育を見ている。清水中に繁茂していたからと流水や有機質の少ない水中におくのは禁物でやはり普通のタヌキモと同様、水鉢に多量の土を入れ、ワラの浸出液でpHを弱酸性に保って栽培するのが好結果を生むようである。1982. 5. 5

文献リスト<1981-(3)>

- 沖陽子・植木邦和. 種々の育成状態におけるホテイアオイの組織学的研究. 雑草研究 26: 291-297.
- 下田路子・鈴木兵二. 西条盆地(広島県)における休耕田の植生. *Hikobia Suppl.* 1: 321-339.
- 百瀬忠征. オオカナダモの高校生物実験への応用(続IV) —オオカナダモの根について—その2. 都生研会誌 No.17: 19-23.
- 矢野悟道. ヨシ群落の地下構造について. *Hikobia Suppl.* 1: 371-380.
- Kadono, Y. Habitats of Japanese *Potamogeton*: Abstract. *Verh. Internat. Verein. Limnol.* 21: 1497.
- Ohba, T. & H. Sugawara. *Über Synsystematik artenarmen Pflanzengesellschaften an extremen Standorten: Zosteretea marinae und Podostemonetea class. nov.* *Hikobia Suppl.* 1: 183-188.
- Satake, K., P. J. Say & B. A. Whitton. Use of X-Ray fluorescence spectrometry to study heavy metal composition of aquatic bryophytes. "Heavy Metals in Northern England: Environmental and Biological Aspects" (Say, P. J., & Whitton, B. A. ed.): 147-152. University of Durham, Dept. of Botany.

(次号につづく)